

喫煙習慣がない人も肺がん検診を受けましょう



肺がんは我が国のがんによる死亡原因の多くを占めるがんで、国立がん情報センターによると、2019年の統計で男性では死亡原因の1位、女性は2位となっています。肺がんは、肺細胞の遺伝子に傷がつくことで発症すると言われており、最大の発生要因として喫煙が指摘されていますが、肺がんの種類によっては喫煙の影響が大きいものもあり、喫煙以外で発生のリスクを高めるものもあります。

1. 主な肺がんの組織型とその特徴（喫煙との関連）

	組織分類	多く発生する場所	特徴
非小細胞肺がん	腺がん	肺野	・肺がんの中で最も多い ・症状が出にくい
	扁平上皮がん	肺門 (肺野部の発生頻度も高くなっている)	・咳や血痰などの症状が現れやすい ・喫煙との関連が大きい
	大細胞がん	肺野	・増殖が速い
小細胞肺がん	小細胞がん	肺門・肺野 ともに発生する	・増殖が速い ・転移しやすい ・喫煙との関連が大きい

上記の表のように、肺がんの組織型によっては、喫煙との関連が大きいものもあり、喫煙していなくても肺がんに注意する必要があります。

2. 肺がんの発生要因（喫煙と喫煙以外）

喫煙は肺がんの危険因子の1つです。喫煙者は非喫煙者と比べて男性で4.4倍、女性では2.8倍肺がんになりやすく、喫煙を始めた年齢が若く、喫煙量が多いほどそのリスクが高くなります。受動喫煙（周囲に流れるたばこの煙を吸うこと）も肺がんのリスクを2~3割程度高めます。

喫煙以外では、職業的曝露※1や大気汚染※2、家族に肺がんにかかった人がいる、年齢が高いことなどが発生のリスクを高めると考えられています。

※1 アスベスト、ラドン、ヒ素、クロロメチルエーテル、クロム酸、ニッケルなどの有害化学物質にさらされている

※2 特にPM2.5（粒径2.5ミクロン以下の微小浮遊粒子）による汚染

3. 40歳以上の方は1年に1回、喫煙の有無にかかわらず、肺がん検診を受けましょう。

肺がんは早期の自覚症状が無いことが多く、症状が出てからでは進行していて根治が難しくなることから、年1回の肺がん検診で早期発見し、治療につなげることが、喫煙の有無にかかわらず重要となります。大阪狭山市では一部負担金500円で肺がん検診を受けることができます。

出典：国立がん研究センターがん情報サービス